

1. 目的と方針

長期間かつ多くの関係者が絡むプロジェクトを適切に進めていくためには、計画・設計・施工に至る様々な段階で、立ち戻ることのできる「計画の柱」をまとめておくことが重要と考えます。

そこで、基本設計と並行し、リニア駅前の考え方や目指す空間像を、地域の人々や多くの関係者・関係機関と共有するための資料として、『(仮称)リニア駅前空間デザインノート』を作成します。

本資料は、市民向けのパンフレットにもなり、また、関係機関や将来の設計者・施工者などへの説明資料・意思伝達資料になるものを目指します。そのため、模型写真やパースなどビジュアルに配慮した資料に加え、できるだけ専門用語を用いない説明により、コンパクトでありながら、計画の考え方をきちんと伝えられる資料とします。

また、内容については、市民ワークショップ・学識者専門委員会・リニア駅周辺整備デザイン会議での議論の内容や意見を反映し、市民との協働によるリニア駅前の計画を取りまとめたものとします。

2. 構成案

(1) リニア駅・駅前空間の考え方

⇒地域やエリアの特徴や魅力も含め、テーマや設計の方針を記載【次頁参照】

(2) 駅前全体の空間デザイン

⇒テーマや設計の方針を実現するために大切にすべきことを、駅前空間の全体イメージとともに記載(今後、内容を検討)

(3) エリアごとの考え方と空間デザイン

⇒交流広場、コミュニティ施設、魅力発信施設など、それぞれの空間イメージや活動イメージ、設計において重視すべきことを記載(今後、内容を検討)

(4) 全体にかかる統一事項

⇒舗装などの素材や色彩、植栽など、駅前全体で統一する要素についての考え方を記載(今後、内容を検討)

(5) 魅力発信コンテンツのビジョン

⇒駅前空間で発信するコンテンツ(サービス、体験など)の内容、対象者などの考え方を記載(今後、内容を検討)

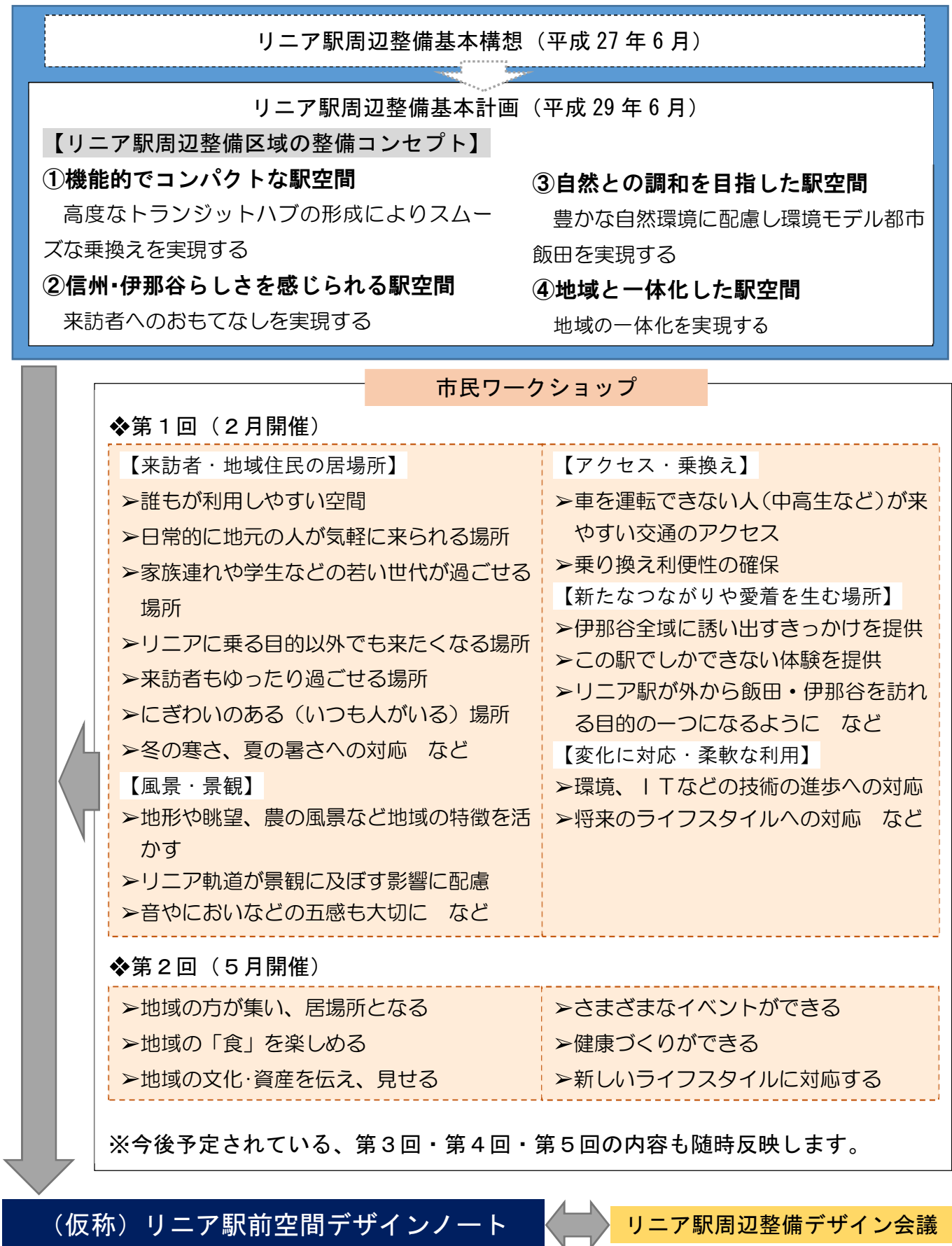
3. 「(1) リニア駅・駅前空間の考え方」について

本デザインノートの根幹となるものであり、「テーマ」と「設計の方針」で構成しています。

検討にあたっては、リニア駅周辺整備基本構想(平成27年6月)に基づいて策定した「リニア駅周辺整備基本計画(平成29年6月)」を踏まえています。また、市民ワークショップでの議論の成果を盛り込んでいます。

なお、記載内容については、今後の検討や市民ワークショップの進捗に伴って随時更新を図ることとします。

■ (仮称) リニア駅前空間デザインノート検討の流れ【イメージ】



【テーマ（案）】

『 結 い の 広 場 』

- 「トランジット機能」（乗換え）と「にぎわい・交流機能」（人と人・モノ・体験・地域などを結びつける）を両立する広場とします。
- この地域で営みを続ける人々の暮らしへのアクセントとなり、地域固有の風景などから信州・伊那谷を感じられるような広場とします。

【整備コンセプトを実現するために大切にすべきこと（設計の方針）】

1) アクセスやバリアフリーに優れた交通環境 ……基本計画のコンセプト①・④に対応

- ・南北一体の広場に接するように、高速バスや観光バスも停車できる北口交通広場と、地域の人々が使いやすい南口乗降場を設け、高度なトランジットを実現します。
- ・改札から平坦な道を歩いて乗り換えができるよう、バリアフリーに配慮した交通環境とします。
- ・車の利用者が乗り換えやすい駐車場を設けます。
- ・学生や高齢者など車に乗らない人たちが利用する公共交通などのアクセスに配慮します。

2) 地域住民や来訪者の居場所となり、豊かな時間を過ごせる駅前空間

……基本計画のコンセプト①・④に対応

- ・駅を中心に南北をつなぐ広場を設け、それを囲むように交通広場や魅力発信・生活利便機能を備えた施設を配置することで、駅を中心とした人が主役の緑とにぎわいの広場をつくります。
- ・お茶や買い物を楽しんだり、地元の食材やお酒を味わったり、家族でのんびり過ごしたり、散歩で立ち寄りたり、健康づくりをしたり、学生が課外活動をしたり、様々なイベントで盛り上がるなど、リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間とします。
- ・広場空間は、大小様々な使い方ができ、冬の寒さや夏の暑さにも配慮した居心地の良い空間とします。
- ・地域の伝統文化の継承や地域のコミュニティの絆を高める空間とします。

3) 伊那谷の風景に溶け込み、その魅力を引き出す駅前空間

……基本計画のコンセプト②・③に対応

- ・天竜川に向かって傾斜する地形や豊かな用水の流れ、南アルプスや伊那山地への眺望や多様な生態系といった地域の特徴を活かし、駅を出た瞬間から伊那谷らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と合わせ、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・周囲の風景と広場のデザインの調和に配慮します。

4) 様々な人のつながりと、伊那谷全域へと誘い出すきっかけをつくる駅前空間

……基本計画のコンセプト②・④に対応

- ・来訪者と地域住民といった人と人の出会いや、来訪者と地場産品といった人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・長野県全域や伊那谷周辺の魅力的なエリアやお店、アクティビティを伝える情報提供など、長野県や伊那谷全域へ誘い出すきっかけをつくります。
- ・近隣住民の生活環境を守りつつ、周辺に良い波及効果を生み出すよう、敷地内だけでなく周辺地域との回遊性を確保します。
- ・将来の運営者・事業者が持続的で様々なニーズに対応した使い方ができる空間とします。

5) 時代を先取りし、変化に対応できる計画 ……基本計画のコンセプト①・③・④に対応

- ・限られた土地を有効活用するために、平常時とイベント時のように曜日や時間によって、さまざまな使い方ができるフレキシブルな空間とします。
- ・自動運転や次世代モビリティといった発展目覚ましい技術や、エネルギー、ライフスタイルの変化など社会のニーズにも対応できるようにします。
- ・グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に用い、環境に優しく、災害にも強い空間をつくります。

